

太閤と通訳

井沢 実

日本にカトリック教を傳えたイエズス会はポルトガル国のドン・ジュアン三世王の後援によってインドに派遣せられた宗教団体であって、スペイン国王の支援の下に、メキシコやグアテマラに布教のために進出して来て、之等二ヶ国を足場としてフィリピン諸島に勢力を延して来たアグステイン会、フランシスカン派およびドミニコ派よりも、日本布教に有利な地歩を占めたことは皆様御承知の通りであります。

スペイン国征服者レガスピ等が、ルスン島のマニラを占領して、初めてマニラ在留の日本人と交渉を持つようになったのが1570年であるが、イエズス会は既に1549年から日本の布教に従事しており、織田信長よりは多大の庇護を受けたのみならず、多くの大名の信者も出来ており、ローマ法王グレゴリオ三世は、イエズス会に對し、日本布教の独占権すら與えられた。イエズス会が日本において、その社会的および政治的重要性を増すにつれ、日本国内における権力の中樞と交渉する要件が段々と増加して来た。又イエズス会は、マカオから来る毎年の貿易船の保護にまで乗出さざるを得なくなって来たのみならず、自らも貿易の一部に参加したので、其処の権力者に接近、交渉する必要があった。

イエズス会の日本語研究は廣く深くなって行った。イエズス会の出版活動が拡大されて行くに従って、日本語の文法的研究、辞書の編纂や、平家物語、大平記、イソップ物語等多くの名著の梗概がローマ字綴りで刊行せられるようになって来た。ローマ字綴りと云ふのは、目標は日本人でなく、引続いて来朝する布教者に日本語を習わしめようと云ふのである。

イエズス会の出版物によって、日本語の研究が、如何に積極的に行われていたかと云ふことがわかる。

説教、交渉等のためイエズス会士の間には、日本語に通じた多くのパテレンが居る。そのうちでも、ルイス フロイス、オルガンテイノ、ジョアン・ロドリゲス等を挙げる事が出来る。ジョアン・ロドリゲスと云ふ氏名のパテレンが同時に、日本に布教していたので、この二人の区別をつけるために、日本語に通じていた方に Joan Rodriguez Tūçdu (通事) と云ふ一種の職名のような単語を加えていた。太閤は病が重くなってから伏見城の三ノ丸に籠って、人々に謁見を與えなかったが、1589年9月4日通事ジョアン・ロドリゲスは、マカオから長崎についた商船の船長(カピタン・モール)の命を受けて、太閤に贈物を持参した数名のポルトガル人と共に伏見城を訪ねて来た。太閤はその立派な贈物

を見てから、ジョアン・ロドリゲス丈を病室に通して、暇乞をした。

(1600-3年イエスス会日本年報・マヌエル・デ・リラ刊行。エウオラ・1603年)

1580年、スペイン国王フィリップ二世は、武威を示して王統の絶えたポルトガルの王位に就任し、翌1582年トマル市において開催せられた三部会の正式の決議によって、法立上もポルトガル王となった。しかしスペインおよびポルトガル国は、両国の協定によって、別々の政府を形成して、その国政を混合することはなかった。夫れだから、イエスス会は日本布教に独占権を持ち続けていた。

太閤は、曾ってマニラ貿易に従事したことがある原田喜右門から、マニラには、スペイン人が少し武備も整っていないから、入貢を要求して見たら、兵を労することもなく、ルスンを手に入れることが出来であろうと説かれたので、夫れでは原田に命ずると云って、知事のゴメス・ペレス・ダス・マリニヤスに対する書翰を手渡された。

原田喜右門は、マニラにおける官憲に對し信用を得る方法として、丁度日本に滞在中であったバリニヤニにマニラのイエスス会支部に對する紹介状を貰いたいと頼みこんだ。バリニヤニは、オルガンテイノから、原田は一冒険者に過ぎないから、眞面目に取合わないよう注告を受けたので、原田の依頼に應じて紹介状を出すようなことはしなかったのみならず、先手を打ってマニラにあるイエスス会支部長セデエニヨに、原田の人物や、その悪だくみを知らしてやった。

原田喜右門は、イエスス会あての紹介状を手に入れなければ、使命が成功するや否や疑わしいと思われたので、自分が使者となって行くことを取りやめ、使用人の孫七郎を使って太閤の書翰を届けさせた。

原田孫七郎は、マニラ在住の日本人の間に不安混乱の種を蒔き散し、又マニラにおけるカトリック教の諸宗派の者に虚実の話を吹きこんだ。

太閤のフィリピン宛書翰の原稿はその写が日本にも残っているから御存知であるが、原田のマニラにおける行動についてはスペインの古文書館に

“Copia de varias notisias dadas por Antonio Lopez sobre los recelos que se tuvieron en Manila de los japoneses.” A. de I. E. 1, -C. 1=L-3/25 no. 1-r-50. Secular, Filipinas. Simancas. として綴られたものがある。

しかしながら、殆んど無腰であって日本に近く位置している關係上、日本からの申出を放置出来ないと云ふので、使節を日本に派遣して太閤の眞意を聞かそうと云ふので日本に派遣せられたのが Juan Cobo と云ふドミニコ修道会の神父である。コーボはマニラにおいて支那の在留民教化の主任で、支那の言葉を習っておった。既にシナ語も大分上達しておって、明末から清初にかけて最盛した。いわゆる善書とよばれる民間の勸善の書(白石

昌子氏の形容) 明心宝鑑をスペイン語訳をした。(刊行されずに原稿はスペインの国立図書館に保管されている。)

勿論コーボ氏選出後に開かれた会議において、イエスス会を代表して長老のセデニヨ神父は、グレゴリオ13世の与えたイエスス会の日本布教独占権に関する教諭を楯として、大いに奮闘したが、太閤の招諭に對する交渉を行ふ外交官的職務であって、布教ではないと云ふので押切られてしまった。多勢に無勢——セデニヨの孤軍奮闘に終わった。

マニラを中心とするカトリック各派の内には、日本には一人の信頼出来る通訳も居なかった。コーボはパナマから日本に銅 その他の産物を買付けに来て、その俸残って居ったホアン・ソリスと云ふ軍人を手傳に使って、日本側との交渉、その他の世話になった。ソリスは、日本に来ていたポルトガル人に資金を奪われたり、色々商賈上の妨害を受け、一旦ゴアまで行ったが、バリニヤニが日本に赴く時に同行して来て、日本側に對する贈物購入に協力した人である。岡本良知君の著作年表によれば、岡本君はソリス関係の研究を一、二 発表されている趣であるが、まだその研究は未見である。

コーボは日本からマニラに帰る途中台湾で難船して死に、太閤との交渉の結果を正式にフィリピン総督に報告していない。

その報告書と見られるものは、

(一) *Historia General de las Indias Occidentales, y particular de la Chiapa y Guatemala por Fray Antonio de Remesal. Guatemala, 1932.*
第二版)

第一版はマドリッド出版1616年

第十一卷の七章から十一章までがコーボ関係の記事である。コーボがグアテマラのドミニコ会修道院からマニラに移ったので、ヒリピンに移った後の現地事情を詳細に書き送ったので、その俸グアテマラのドミニコ会史の一部として編纂したものである。

(二) *Testimonios Antenticos acerca de los Protomartires del Japon, México 1954*

この書物は二十六聖人処刑後、メキシコにあったフランシスコ・修道会のプロクラドールがマニラに命じて、関係者から処刑前後の事情から、日本とフィリピンとの政治、通商、移民、フィリピン在留日本人達より聴取書を取り、公証証書としたものの集積である。

原田喜右衛門、孫七郎等の陳述書もあり、又在留日本人および日本から送られた記録などもある。

(三) 使節として来朝したコーボが 原田喜右門と別々にフィリピンに渡航するので

原田が先に着くことを心配して 総督あてに書いた紹介状があるが、それによって太閤との交渉の経過の一部がわかる。前書のうち。

四 Labor Erangelier de los Obreros de la Cía. de Jesús en el islas
Filipinas Por el Padre Francisco Colin.

使ったのはタバカレーラ版で、豊富な古文書の引用がある。引用古文書の方が本文より二・三倍はあるであろう。引用古文書は、セビリヤのインド・古文書館で30年以上も古文書蒐集をしておいたパステル師によって集められたものである。

曰の諸聴取書集は105部しか印刷せられなくて、豫約出版以外にはない。入手することは難しいと思われるが、私の推定では 少くとも日本には 四部はあると思われる。

この聴取書集とコリンのイエスス会史を詳細に讀めば、日本とフィリピンとの歴史の一部は書き換えなければ いけなく なりそうである。

例えば、

博多灣で、太閤とウイセ・プロウインシアルのクエリヤノとが フスタ船の上で会見した時の状況は1586年10月2日付 臼杵発 ペロ・ゴメスよりアレサンドロ・パリニヤノニあての書翰に詳しく書いてあるが、ソリスや、アントニオ・ローペスの聞いた処では、クエリヤール副管長は、太閤が 大砲を積んだポルトガル船のようなのを欲しがった時に、「サカフォルテの土地と住民と交換ならば」と云ったら、太閤は黙って横を向いてしまった と云ふことをソリスおよび、その他の人もマニラ政庁で證言している。これ等今まで全く日本に傳っていなかったのでは あるまいか？

「サカフォルテ」「リカフォルテ」の何れかと思ふが、或いは長崎などの別名に「佐賀——」等と云ったのではないかと思われる。御教示を得れば幸いです。